

せぼねの病気に対する"長持ちする"治療選択

加齢に伴い増えてくるのが骨や関節など運動器の疾患です。

中でも首からお尻まで一つにつながっている「背骨」は体の軸であり、背骨の病気の多くは痛みや歩行困難を伴うため、健康寿命を脅かす大きな原因となります。

そこで背骨の病気治療のエキスパートである藤田医科大学病院の藤田順之先生と金子慎二郎先生に、主な背骨の病気とその治療法についてお聞きしました。

「せぼね」の病気は
複数が合併することも多く
治療が難しい領域です。



藤田医科大学 整形外科科学講座 教授 藤田 順之先生

複数の病気が合併する
背骨の病気治療の難しさ

—背骨の病気にはどんなものがあるのでしょうか。

藤田 中高年から増えてくるのが「脊柱管狭窄症」です。背骨にある神経の通り道「脊柱管」を支える周囲の組織が劣化して狭くなり、神経が圧迫される病気です。歩くとき下肢の痛みやしびれが起これば、楽になる「間欠跛行（はこご）」が特徴で、10分程度の歩行で痛むようなら積極的な治療を検討する対象となります。

金子 高齢者では、背骨が横や後ろに曲がる側弯症や後弯症などの「脊柱変形」も少なくなく、なかには骨粗鬆症（こっしょうしょう）に伴って起こる「椎体（ついたい）骨折」を合併しているケースもあります。

藤田 しかも、椎体骨折と脊柱管狭窄症が合併するなど、背骨の病気は複数が関連して発症することが多いので治療方針を

適切に決めることが大事です。

金子 そのため、チーム医療として、複数の専門医や他職種の間で治療方針に関してカンファレンスで議論することがより大事になってくる領域です。また、患者さんのライフスタイルや価値観などを共有するために患者さんとしてしっかりとコミュニケーションをとり、長期的な観点で最適な治療法を考へることが非常に重要です。

効果が長持ちするのが
本当の低侵襲治療

—実際の診断や治療についてはいかがですか。

藤田 脊柱管狭窄症の場合、まず痛みを取るための内服や注射といった保存療法から始まります。薬物療法で使える薬には様々な種類があり効果も期待できますが、経過を見て期待する効果が得られなければ手術療法を検討することになります。手術では、痛みの原因となる周囲の組織

からの圧迫を取り除く「除圧術」に加え、背骨同士を固定させる「固定術」を施します。手術は保険適用ですし、入院も5〜10日程度。術後は多少の痛みはあるものですが、リハビリを始められます。

—近年、低侵襲手術も普及しているようですが、それについてはいかがですか。

藤田 切開幅が小さければ術後の患者さんの負担は軽減できますが、私たちが最も重視するのは、脊柱管を圧迫している痛みの原因をしっかりと取り除くことです。除圧後の固定術では、脊柱の安定性を確保するため患者さん自身の骨や人工骨を用いて固定し骨癒合を促しますが、癒合がうまくいかないこともありますし、また、将来、固定した上の背骨がずれてくることもあるのがこの病気の特徴です。そのため背骨の手術では、手術時の患者さんの負担軽減も大事ですが、再手術にならないことを心がけることも重要です。

金子 背骨には24個の骨があり、1箇所の問題が解決しても、隣の部分の問題などで再度、手術になることが少なくありません。

手術を行う場合には、木を見て森を見ずとならないような形で、効果がより長持ちする手術を行うことが、患者さんにとって真の意味での低侵襲な治療であると考えています。

医療機器と医療体制の
充実により最善の治療を探る

—「脊柱変形」の治療についてはいかがでしょうか。

金子 以前は、「腰曲がり」は歳だから仕方がない「など」と言われていた高度の脊柱変形に対しても、手術の技術や道具の進歩に伴い、矯正を主目的とした手術を行うことが可能な時代になってきています。ただし、高齢の患者さんにとって手術は合併症のリスクが低くはないため、まずは薬物療法などの手術以外の治療の手を尽くしますが、これらで改善が乏しい場合、手術を検討します。

一方、脊椎の中には脊髄という神経の束が走行している関係で、変形矯正を行う際に、脊髄の機能が障害される可能性があります。脊髄の機能をモニタリングしながら矯正を行うことや、手術後のリハビリテーションも重要です。従って、他職種や他科と連携することでチーム医療として、より安全な治療を行うことが重要です。

—「側弯症」は子どもにも見られるそうですね。

金子 小児の側弯症には、幾つかのタイプがありますが、多くは、10歳代の前半に側弯が顕在化します。側弯の程度や年齢によつては、装具治療が進行の抑制に有効となる場合があることから、早期発見が重要であり、そのため、学校検診が行わ

れています。

側弯症は特殊な疾患であり、どの医療機関でも同じような診療が受けられるとは限らず、また、長期的な視点に基づいた治療が大事になってくる疾患です。側弯症の専門診療を行っている大学病院などの医療機関に早めに受診することをお勧めします。

藤田 早期介入の重要さは背骨の病気に全般的に言えます。特に女性に多い骨粗鬆症は背骨の骨折と深く関係しているため、骨粗鬆症予防治療と併せて考へる必要があります。

長期的視点に立った
治療を実践する主治医を

—最後に読者の皆さんに向けてメッセージをお願いします。

藤田 背骨の病気は多岐にわたり、しかもそれぞれの病気が関連しています。複数の病気を合併することも珍しくないので、金子先生が述べたように、チーム医療や他科との連携といった総合力と先進医療機器のサポートの有無が安全性を左右します。

特に医療機器は日進月歩で、診断に欠かさないMRIも次々と高性能な機器が登場しています。さらに、重力下での全身撮影が可能な「立位CT」など、より高度な先進機器により精度の高い診断ができるようになりました。

受診する医療機関を選ぶ際には、かかりつけ医の紹介や自身でホームページなどに掲載されているドクターの情報などを検証し、信頼できる医療機関、主治医を選んでほしいと思います。

金子 われわれは脊椎診療のプロフェッショナルですので、それぞれの患者さんの病態に対して、どの治療法を選択するか、手術を行う場合にはどの術式を選択するか、しっかりと見極めることが最も重要です。その際に、効果が最も長持ちする治療法を選択することが重要であり、傷が数センチ短くても、短期間に手術を何度も追加するというケースと、傷の長さが若干、長くても、治療効果が長持ちするケースでは、後者の方が患者さんに対する侵襲が少ない治療であることは明らかです。

インターネット上のキャッチーな謳い文句などに惑わされず、長期的視点に立った治療を実践する主治医を持つことが大切だと思います。

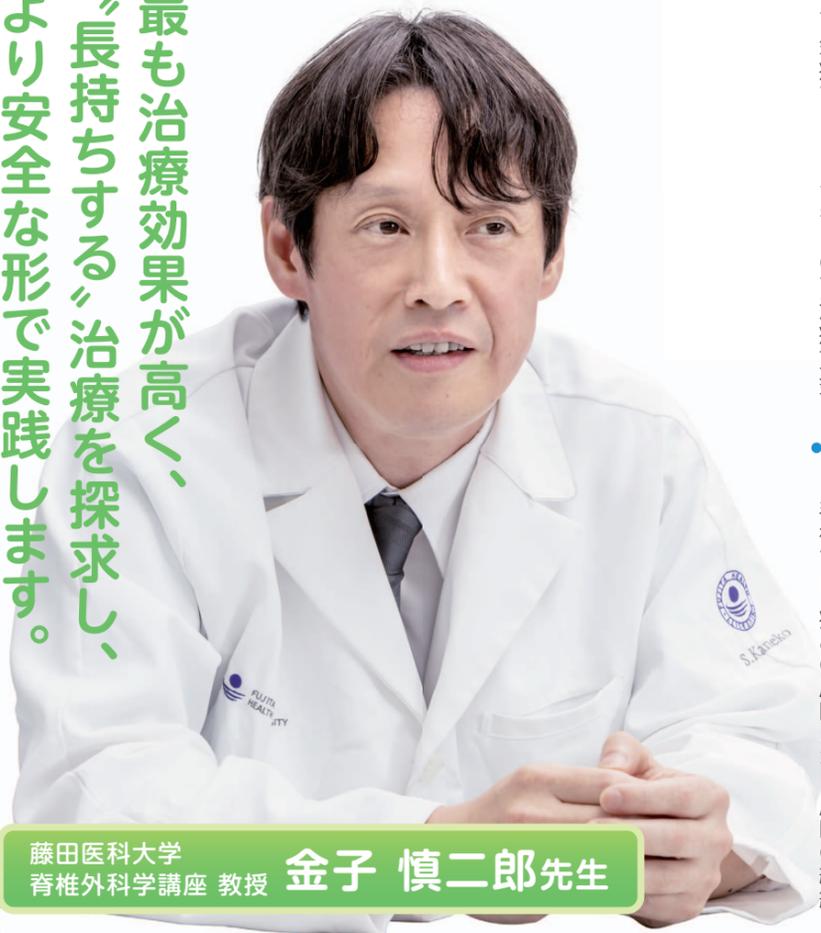
—本日はありがとうございました。

「せぼねのアンケート」実施中
回答者の中から抽選で
クオカードペイをプレゼント
します。下記の二次元コード
よりお答えください。
締切:7月26日(金)



※ご回答いただいた情報は、
プレゼントの発送とサービス向上
以外の目的では使用しません。

最も治療効果が高く、
長持ちする治療を探求し、
より安全な形で実践します。



藤田医科大学 脊椎外科学講座 教授 金子 慎二郎先生